

授業科目名	【G】 【H】	憲法(人権)Ⅱ 憲法(人権)Ⅱ	区分 選択	開講年次	【G】2 【H】2	単位数	【G】2 【H】2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブタイトル	基本的人権各論				担当者	小林 伸一		
授業概要	【概要】	日本国憲法15条から40条までに保障されている主要な人権について、通説的な学説に即して講述する。						
	【到達目標】	主要な人権の具体的内容と限界(人権制約の違憲審査基準)を修得する。						
履修条件	本講義は、受講生全員が憲法概論の単位を取得していること、並びに憲法人権Ⅰの単位を取得していることの2点を前提に進める。							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との関連性	本講義は、憲法(人権)Ⅰの応用編である。また、本講義では、人権制約の違憲審査基準にも比重を置くため、81条所定の違憲立法審査制について詳説する憲法(統治)Ⅱと密接に関連する。							
教科書	芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法 第八版』(岩波書店2023年) 必要に応じてGoogle Classroom上に講義レジュメを提示する。							
参考書	高橋和之『立憲主義と日本国憲法 第6版』(有斐閣 2024年) 矢野龍一・巻美矢記・安西文雄『憲法学読本 第4版』(有斐閣 2024年)							
評価方法	本試験としてgoogle classroom上に2回にわたり課題を提示し、その解答文を基に成績評価を行う。							
フィードバック方法	講義内容について質問や意見がある場合には、google classroom上のメールで投稿すること。取捨選択の上で回答する。							
評価基準	本講の趣旨・内容を十二分に理解し、そのことが課題に対する解答文に顕著に表れている受講生は、「S」または「A」とする。講義内容についての理解が必ずしも十分とはいえず、しかも解答の表現が的確とはいえない受講生は、その程度に応じて、「B」または「C」とする。講義内容に対する理解が明らかに不十分で、しかもそのことが解答の内容・表現に如実に表れている受講生は、その程度に応じて、「D」または「E」とする。正当な理由なく解答未提出の受講生は、「F」とする。							

授業科目名	【G】	憲法（人権）Ⅱ	区 分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
	【H】	憲法（人権）Ⅱ	選 択		【H】2		【H】2
授業回数	授業内容						
1	ガイダンス 憲法(人権)Ⅰの復習と補完						
	予習:	公共の福祉に関する101頁～109頁	復習:	一元的内在制約説 比較衡量論 二重の基準論			
2	思想及び良心の自由						
	予習:	160頁～1164頁	復習:	内心の自由 沈黙の自由 君が代起立斉唱拒否事件 一般的法義務 間接的制約			
3	信教の自由						
	予習:	164頁～170頁	復習:	信仰の自由 宗教的行為の自由 剣道実技拒否事件			
4	政教分離原則						
	予習:	171頁～181頁	復習:	目的効果基準 津地鎮祭事件 空知太神社事件			
5	表現の自由の具体的内容						
	予習:	189頁～211頁	復習:	表現の自由の価値 報道の自由 取材の自由 博多駅テレビフィルム事件 チャタレー」事件			
6	表現の自由の限界						
	予習:	211頁～232頁	復習:	内容規制・内容中立規制 事前抑制の理論 明確性の理論 LRAの基準 税関検査事件			
7	職業選択の自由						
	予習:	245頁～252頁	復習:	規制目的二分論 小売市場事件 薬事法事件 要指導医薬品対面販売規制事件			
8	財産権						
	予習:	255頁～259頁	復習:	私有財産制度 森林法事件 証券取引法事件			
9	損失補償						
	予習:	260頁～263頁	復習:	特別犠牲説 相当補償説 完全補償説			
10	刑事手続き上の人権						
	予習:	264頁～278頁	復習:	適正手続の原則 緊急逮捕 一事不再理 二重の危険			
11	国務請求権						
	予習:	279頁～282頁	復習:	裁判を受ける権利 訴訟事件の裁判 非訟手続による審判			
12	参政権						
	予習:	283頁～289頁	復習:	選挙権に関する二元説 普通選挙の原則 平等選挙の原則			
13	生存権						
	予習:	290頁～294頁	復習:	プログラム規定説 抽象的権利説 朝日訴訟 堀木訴訟			
14	教育を受ける権利						
	予習:	296頁～299頁	復習:	国家教育権説 国民教育権説 旭川学力テスト事件			
15	労働基本権						
	予習:	299頁～304頁	復習:	公務員の争議行為の自由 合憲限定解釈 都教組事件 全農林警職法事件			
その他	受講生は、Googleclassroom上に提示される講義レジュメや資料をダウンロードしプリントアウトできるようネット環境を整えること。 予習・復習は、各120分程度を目安としてください。						